

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	A	○全国水準以上の確かな学力の育成	1 基礎学力の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	①「学力向上ロードマップ」の検証と更新を行いながら、研究主任を中心に研究部の各部と連携しながら、研究の計画的な進捗を図る。 ②児童に「身に付いている力」と「身に付けさせたい力」を明確にし、学年の系統性に即した言語活動、提示の仕方、表現のさせ方について子どもの育ちや学ぶ姿を主体とした校内研究会を組織的に実施する。	①「学校評価アンケート(教職員用)」で「研修計画どおり実施し、研修が深まった」とする教職員100%肯定的評価(H24・H25:100%/H26:88.2%) ②「学校評価アンケート(児童用)」で「学力が向上した」と回答する児童90%以上(H23:94%/H24:83.2%/H25:87.9%/H26:83.6%)	①「研修が深まった」教職員の肯定的評価88.2%であった。 ②「学力が向上した」と回答した児童は83.6%で目標には及ばなかった。	①指導者の検討等、学年部会や研究部会の部員を交えた事前協議を含めた校内授業研を引き続き計画的に行う。 ②単元及び授業の導入で、付けるべき力(学習のめあて)を児童に明確に示して、まとめの段階で、それに対する評価を行う活動をスタンダードとする。	イ、十分に改善されている。 ロ、学力向上のための校内研修体制の確立や授業研「授業力診断シート」の実施などを通して児童一人ひとりの個性や才能を最大限に伸ばす教育がなされ、確かな学力の定着に向けた指導がなされている。 ハ、宿題を通しての予習が、授業へのよい効果として出始めていることを踏まえて、次年度もより一層継続し「分かる授業」づくりを目指されることを期待する。	S A B C
			子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①「授業のスタンダード」による授業の実施、教師も児童も共通の持つ「ユニバーサルデザイン」の授業づくりの研究を実施する。 ②「授業評価アンケート」を活用した授業の検証と改善を行う。 ③NIEロードマップに沿いながら図書資料や新聞を活用した授業を計画的に実施する。	①「学校評価アンケート(教職員用)」で「分かりやすい授業に努めている」とする教職員100%(H24:93.8%/H25:93.4%/H26:76.4%) ②「学校評価アンケート(児童用)」で「授業が分かる」と回答する児童90%以上(H23:98%/H24:88.3%/H25:91.9%/H26:91.7%) ③「授業評価アンケート(児童用)」で「公開授業時(国語)平均値3.8点(4点満点)以上(H23:3.7/H24:3.8/H25:3.7)」 ④新聞(H25より)や図書資料を活用した授業が、計画通りに実施できた(H24:92.9%/H25:86.7%/H26:52.9%) ⑤図書資料等活用した授業を学期に1回以上実施率100%	①「分かりやすい授業を実施している」教職員は76.4%であったが、「授業が分かる」児童は91.7%で目標を達成。 ②「授業評価アンケート(児童用)」3.6点(2学年平均値)でわずかに及ばなかった。 ③図書や新聞資料を活用した授業の計画的な実施は52.9%であったが、そう思うの最終肯定評価割合は昨年比+23.5ポイント(P)アップ。 ④学期に1回以上の図書資料等活用した授業実施率100%(学年平均図書10新聞6回)で目標を達成。※1月現在	①②研究授業後に行う「授業アンケート」の結果を研究協議の場での活用や「授業力診断シート」を単元の終末等に定期的に実施する。 ③授業研などにおいて「身に付ける力」と学習の系統表を再確認して、各指導事項を確実に指導する。 ④ICT機器を活用した協働型・双方向型の授業など、子どもたちの豊かな学力を保障するための授業改善並びに研究を行う。 ⑤計画的な図書利用と図書や新聞を活用した授業の充実を図る(図書支援員との協働、並行読書表の活用、各作品コンクールへの応募など)。			
			学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	①PTAと連携して「予習・授業・復習」のサイクル化を図る。 ②生活・学習習慣アンケートを4月と9月に実施、その結果を本人・保護者へ返して、学習習慣等の改善に向けた意識の高揚を図る。	①学習習慣アンケートで「予習をしている」(児童)75%以上「している」「どちらかといえばしている」の肯定的評価(予習:H23:75%/H24:58.2%/H25:57.1%/H26:68.4% ※復習:67%/79.7%/69.7%/82.1%)※9月調査結果 ②学校評価アンケート(保護者用)で「家族ぐるみで子どもの学習環境整備や学習習慣づくりに取り組んでいる」80%以上(H24:79.1%/H25:80.9%/H26:81.6%)	①「予習・復習をしている」児童は予習68.4%※昨年度比+11.3P上昇復習82.1%※昨年度比+12.4P上昇 ②「家族ぐるみで家庭学習習慣づくりに取り組んでいる」保護者は81.6%で例年の目標の達成。	①目標を達成した項目もあり、成果が表れてきており、引き続き児童への指導と共に保護者と連携した取り組みを続けて行く。 ②調査結果などを基に、便りによる啓発や学級懇談会の場での話題など積極的に家庭へ働きかける。			
豊かな心	A	○夢や希望をもち、その実現を目指して努力する高い志や態度の育成 ○互いの違いや特性を理解し合い、協力してより良い生活をしようとする心や態度の育成	1 道徳授業の改善 2 自己肯定感や規範意識の向上 3 道徳実践力の向上	①道徳の授業研究を計画的に行い、授業チェックシート等による検証を活用して授業改善を図る。 ②特別活動や総合的な学習との関連化をいっそう進め、高い志をもつ児童の育成と、道徳実践力の向上を図る。	①高知県道徳意識調査結果「そう思う」「だいたいそう思う」の上昇※( )は「そう思う」の最終肯定的評価 「道徳の勉強が好き」70%以上(H23:48%/H24:53.5%/H25:48.2%/H26:48.3%) 「将来のためにも頑張りたい」と思う80%以上(H25:83.3%/H26:75.5%) 「近所の人に会ったときは、あいさつしている」75%(H25:77.4%/H26:67.1%) 「自分には良いところがある」70%以上(H23:54%/H24:54.2%/H25:54.8%/H26:46.2%) 「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」85%(H25:61.7%/H26:49.7%) ②児童に道徳実践力がついたと実感できる変化が見られる。(f自主的にゴミを拾う等)	①県道徳意識調査(12月調べ全学年)の「そう思う」「だいたいそう思う」の肯定的評価の割合(H25)→H26 ・「道徳の勉強が好き」(85.5%)→89.5% ・「将来のためにも頑張りたいと思う」(98.6%)→92.3% ・「近所の人に会ったときは、あいさつしている」(95.3%)→93.0% ・「自分には良いところがある」(87.2%)→81.8% ・「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」(89.7%)→85.3%という結果であった。 ②「自主的に通学路のごみを拾える。トイレの履物の整頓が進んでできる。掃除に熱心に取り組む」等、道徳実践が定着してきたと実感できる場面が見られた。	①さらなる道徳の授業の充実を目指して、これまで積み上げてきた実績の継承と個々の教員の授業スキルの向上及び保護者・地域と連携した取組を継続して実践する(家庭で取り組む「高知の道徳」の活用、道徳参観日の開催) ①道徳的価値の視点から、体験活動等、学校生活のあらゆる場面で児童の行動を肯定的に評価する。 ②道徳の授業で身に付けた道徳実践力(内発的資質)と全教育活動を通じた道徳実践(具体的行動)を育む指導とを重ね合わせて、一人ひとりの道徳性を高める。	イ、十分に改善されている。 ロ、目標値を全て達成。縦割り班の有効活用や道徳授業を通して、児童の心身の健康増進と自発的な道徳実践力の向上に努めている。(例えば、路上で、車が止まってくれた時、立ち止まって、帽子を脱いで、お礼をしている児童を見かけたという報告もあり。) ハ、「高知の道徳」がよく利用されているのがよい。 ハ、今まで積み上げてきたものをより一層継続し、喜んで道徳実行の出来る人間として育てて頂きたい。「道徳だより」の活用による、家庭との連携を発展させてほしい。	S A B C	
健やかな体	A	○自分の体力や運動能力を知り、その保持・増進を図り、将来に向けて健康管理や危機対応のできる力の育成	1 全国平均以上の体力や運動能力の育成 2 基本的な生活習慣・運動習慣の定着 3 危機対応能力の向上	①全国・高知県体力・運動能力調査の地域への事前練習や「体力向上ハンドブック」の活用を行う。 ②体力向上ロードマップによる、計画的な体力向上策を実施する。 ③学期毎に始業前や業間体育週間を設け、運動に親しませながら体力の向上を図る。 ④外遊びの奨励と、外遊びが活性化する取り組みを行う。 ⑤生活・学習習慣アンケートを年間2回(4月・9月)実施して、分析結果等を児童や保護者へ返して基本的な生活習慣等の定着化を図る。 また、高学年(4年生以上)で「テレビ・ゲーム視聴プログラム」を実施する。 ⑥避難訓練の手立てや内容を改善して実施する。	①②③全国・高知県体力・運動能力調査における総合評価判定E判定の減少 ②体力向上ロードマップによる、計画的な体力向上策を実施する。 ③④生活習慣アンケートで「外遊びをした」(平日)児童70%以上 ※昼休みを含む ⑤生活習慣アンケートで「6時半までに起きる」65%以上(H24:54.4%/H25:59.0%) ⑥テレビ・ゲーム視聴時間1時間以下50%以上(H24:48.0%/H25:47.9%)※⑤・⑥平日/9月調査(後期) ⑦朝食で「主食・主菜・副菜・汁物」の内、3つまで揃っている(平日と休日)65%以上(H24:52.9%/H25:60.5%) ⑧避難訓練(地震)実施3回以上(H25:100%)合わせて、引き渡し訓練の実施1回 「高知県安全教育プログラム」を活用した授業(防災教育)の実施 年5~6時間(新規取組項目)	①男子のE判定は昨年度と同様の3.8Pであったが、D判定は-4.8Pの減となった。女子は3.1Pで、0.1Pの微増となったがA判定+3.8Pであった。 ②「運動することが好き」「体育の授業が好き」96.5%と目標値を上回った。 ③④「外遊びをした」児童 81.9%で目標値を上回った(9月調査結果)。 ⑤「6時半までに起きる」児童 68.6%(平日) 昨年度比+9.6P ⑥テレビ・ゲーム視聴時間1時間以下57.2%(平日)昨年度比+9.3P増 ⑦朝食で「主食・主菜・副菜・汁物」の内、3つまで揃っている。平日と休日の平均60.5% 昨年度同様 ⑧避難訓練(地震)現在2回実施 火災避難訓練2月実施予定 他、起震車体験、PTA広報誌による啓発(3回)引き渡し訓練の実施1回(8月)「高知県安全教育プログラム」を活用した授業の実施 年5~6時間(2月中には全学年達成予定)	①②③④外部指導者を計画的に招聘して、指導と助言を仰ぐ。 けがやトラブルを防ぐためにも運動や遊びのルールをしっかりと指導する。 体力向上ロードマップ(授業改善・業間体育週間・外遊びの活性化など)による、計画的な体力向上策を実施する。 ⑤家庭との連携が取れるような更なる手立てを考える。(例:生活リズムチェックカード等) ⑥テレビ・ゲーム視聴時間等に関する給食保健委員会からの集会等の情報の発信や保護者に対する啓発の便りの配布、教育相談時の個別指導を計画的に行う。 ⑦朝食の摂取、内容の充実に加え、「お弁当の日」の定着など、食育のさらなる進展に向け農産物と栄養教育との実態を踏まえた連携した取組と共にPTAと連携して取組の改善を検討する。 ⑧保護者や地域と連携した、災害時の引き渡し避難訓練等の充実を図る。	イ、おおむね目標は達成されている。 ロ、健康の大切さを認識させると共に、自ら進んで健康づくり、体力づくりの出来る児童の育成がなされていた。食育も家庭と連携して成果を上げている。高学年の自分で作るお弁当は、意味がある。素晴らしい!! ハ、避難訓練や引渡し訓練を実施することにより安全教育がなされている。 ハ、今後も続けて保護者や地域と連携した訓練の実施が望まれる。	S A B C	
保護者地域との連携	B	○保護者や地域住民の参画を得た学校運営の推進	1 学校の情報を伝える工夫の実施 2 学校支援本部の計画的活用	①学校だより・学級だより等で学校・学級の取組や子どもの育ちを具体的に伝える。 ②学校ホームページの更新をこまめに行い、学校行事や取組を分かりやすく伝える。 ③学校支援本部の具体的な支援計画を立て、計画的な実施と振り返りを行い、次年度に生かせるようにする。	①学校評価アンケート(保護者用)で「情報提供を積極的に行っている」90%以上(H23:92%/H24:87.1%/H25:95.2%) ②ホームページの更新が年間6回以上(H24:年間5回/H25:25回以上)※1月末現在 ③学校支援ボランティア活用延べ人数300人(H23:298人/H24:298人/H25:298人)	①情報提供を積極的に行っている97.0%で、昨年度比+1.8ポイントであった。 ②ホームページの更新は月平均3回以上であった。(H27.1月末) ③学校支援ボランティアの活用延べ人数は252人(H27.1月末現在) ※読み聞かせ、学習支援等	①学校・学級だより等の定期的な発行に努める。 ②HPの更新を継続すると共に、執行委員会等、児童から発信するページを設ける。 ③学校支援ボランティアによる支援は、学校教育活動の質を高める上で非常に重要であり、活動の場を工夫すると共に、新たな協力者の登録も呼びかけるようにする。	イ、全てにおいて、目標を達成している。 ロ、先方生の愛情を感じる広報活動。学校・学級だよりの取り組み。HPの更新が月平均3回以上、速やかに、最新の情報が多くあり学校の取り組みが評価できる。子ども会活動の充実や参観日等の出席数の多さにも地域との連携のよさが伺える。 ハ、保護者以外の地域との連携。卒業生やその関係者など、防災上でも地域ぐるみの見守りは今後ますます重要になってくると思われる。	S A B C	
教職員の指導力の向上	B	○今後増加する若年教員の育成 ○激しく変化する社会情勢の中で、様々な課題に対応しながら全ての児童の力を伸ばすことのできる教職員となるための資質・指導力の向上	1 研修機会の確保、内容の工夫 2 PDCAサイクルによる組織的な授業研究の充実 3 高知県・文科省各事業指定校としての研究を全職員で取り組む(キャリア教育・道徳教育)	①各教科(国語科)と道徳で、各教員年間1回(計7回)の授業研究会を行う。 ②学校事務関係、学力や体力の向上、特別支援教育等の課題について、各分掌、研究部などで講師招聘等の計画を立て、確実な研修の実施と活用を図る。 ③人事評価制度を活用して、各人のライフステージに応じたスキルアップを図る。 ④キャリア教育の視点に立った教科・領域における指導力の向上に努める。 ⑤道徳教育用教材活用研究による道徳の時間の指導の充実及び保護者・地域との連携に努める。	①学校評価アンケート(教職員用)で「研修計画どおり実施し、研修が深まった」とする教職員100%(H24・H25:100%) ②学校評価アンケート(児童用)で「学力が向上した」と回答する児童90%以上(H23:94%/H24:83.2%/H25:87.9%) ③学校評価(教職員用)または人事評価の結果(評価3以上の肯定的評価)、全教職員が、学校内外の研修を通して「自己の指導力・機能が向上した」と回答できる(H25:100%) ④キャリアの視点を入れた国語の授業研究を行い授業評価アンケート活用による検証と授業改善に繋げる 夢・志を育てる講演会の開催(中高学年)キャリア形成を図る「夢☆きらりノート」の活用と充実 ⑤各ブロック道徳の授業研究による授業力向上と(道徳参観日を含む6年6回の公開授業・研修会の開催)道徳教育、人権教育、生徒指導の連携及び「志ロードマップ」を活用した組織的な取り組み、家庭で取り組む「高知の道徳」の定期的な活用、道徳参観日の開催(年2回)、道徳便りの発行	①授業評価アンケート(児童用)の結果3.6点 ②「学力が向上した」と回答した児童は83.6% ③学校評価アンケートの結果、「自己の指導力・機能が向上した」と回答した教職員82.3% ④外部講師招聘による夢を育む講演の実施とボール投げの実技指導「夢☆きらりノート」の行事の振り返りの活用/キャリアカフェの設置による情報の発信 ⑤年6回の公開授業の実施(年2回)の道徳参観日含む/道徳便りの発行(1月現在計9号)/HPの発信(道徳の窓)/学校評価アンケート(教職員)「高知の道徳」は、家庭・地域・学校において子どもたち道徳性を育むうえでの役割を果たしているか肯定的な割合88.2%/活用や取り組みが、心の育ちにつながっているか 88.2%	①講師派遣による事前研を含めた授業研究を定期的に行い、教科の課題を明確にしながら改善を図る。 ②各担当授業の校内研修を実施。特に学力調査結果分析に基づく研修により指導力向上、授業改善に繋げる。 ③人事評価制度を活用し、学校の取組と自己目標をリンクさせたり教職員が自己課題に応じた研修会参加等による自身のスキルアップへ結びつけていく。 ④人事評価制度の活用により、年度当初の面談時に学校の取組と自己目標をリンクさせることで、さらに指導力の向上を図る。 ⑤キャリア指定事業の最終年度に向け、これまでの取組の質の向上と本校の特色を明確にする。 ⑥道徳公開授業研究を、これまでと同様に授業の質の向上を目指して計画的に行う。「高知の道徳」の活用並びに道徳便りの発行についても、道徳年間指導計画に沿いながら適宜行う。	イ、おおむね目標は達成できている。 ロ、教職員の意識や力量が高く質の高い教育活動が展開されている。授業後に評価を取りながら反省を踏まえて授業を進めていることが伺える。公開授業の実施(年6回)は、教職員の指導の向上につながっていると思われる。 ハ、今後とも研修・研究を通して、変化の激しい社会の中で、児童一人ひとりの個性や才能を最大限に伸ばさせる教育を目指してほしい。教職員が心身の健康を保持し、ゆとりを持って教育活動に取り組むことが出来る環境の整備にも努めてほしい。 次年度も、具体的に示された目標に向かって継続して進まれることを期待している。	S A B C	